



▲ 生産部会のメンバー(右から二番目が青柳氏)とJA常陸 埴 謙人氏(一番左)

～生産者プロフィール～

氏 名: 青柳 義弘
地 域: 茨城県笠間市
栽培品目: カボチャ、稲作、菊、生姜など
使用品種: カボチャ「栗天下」「ながちゃん」など

1. 生産部会の紹介

茨城県は、全国第3位の生産量を誇るカボチャの一大産地です。稲敷地域での「江戸崎かぼちゃ」の名が全国的に知られていますが、茨城県各地にもカボチャの産地が存在し、ここ笠間市の友部地区でもカボチャの生産が盛んに行われています。JA常陸 笠間営農経済センターの指導員と部会の13人で団結し、栽培面積は約5ha、多い時には一日700ケース出荷しています。キュウリ、トマト、ごぼうやメロンの栽培経験を活かして、毎年ハウス栽培から抑制栽培まで高品質なカボチャを30年に渡り作り続けています。私は「栗天下」を栽培して現在4年目で、今年から部会メンバーも「栗天下」の栽培を始めました。

2. 「栗天下」の栽培 ～生産者の声～

★「栗天下」を栽培したきっかけ

私が「栗天下」を栽培したきっかけは、カット売りが多くなり、市場から大きいカボチャが求められるようになった頃、雪印

種苗から甲高でずっしりとした「栗天下」の紹介を受けたことでした。実際に作ってみると、4・5玉サイズで揃い、黒皮で見栄えが良く、市場から喜ばれたことから部会メンバーにも紹介しました。

★栽培概要

ハウス栽培の1月上旬播種から始まり、トンネル栽培の2月上旬播種、露地栽培の4月中旬播種に続き、抑制栽培は今年から8月上旬に播種しています。

一般作型では、本葉4枚目を摘心した後定植し、強い子づるを2本残します。1つに2つ着果するまでは孫づるを切除し、その後は放任しています。抑制栽培では、親づる1本を残し、同様に子づるを切除して着果後は放任しています。アブラムシや病気の防除は週に1回行っています。

★栽培してみて感じた「栗天下」の特徴

「栗天下」は病気に強く、特にうどんこ病の発生が他品種に比べて少ないです。また、甲高で重量があるため持ち上げるのは大変です。しかし、果柄が長いいためつる当たりせず、マットは引きやすい品種です。さらに、収穫後の痛みも少なく長期

保管でき、着果位置が揃うため、形が揃い箱詰めが楽です。部会の試食会では、粉質であるのはもちろん、皮質が柔らかくて口に残らず、肉厚で実はしまっている印象を持ちました。

★栽培で注意している点

玉がソフトボールぐらいの時に持ち上げると落ちてしまうため、7・8玉サイズまで持ち上げないようにしています。また、一般作型は子づる2本仕立てですが、3本仕立てにして密植にすると玉が小さくなり、つるが暴れて管理が厳しくなります。

3. これから～生産者、指導員の声～

現在、生産部会では複数の品種を取り扱っています。生産量を増やすため、品種を絞って統一化し、栽培管理方法を確立していきたいと思っています。その中で、「栗天下」を今後も増やし、笠間のカボチャの名を広げていきたいと意気込んでいます。今年は、雪印種苗の活力資材も使って抑制栽培に取り組んでおり、資材も上手く利用して行きたいと思っています。

▼ 育てた「栗天下」



▲ 「栗天下」の圃場



▲ 「栗天下」の出荷風景



▲ 「栗天下」の箱詰め